

教科書：詳説日本史 B（山川出版社）

副教材：詳説新日本史史料集成（第一学習社），歴史資料館・日本史のライブラリー（とうほう）

学習目標

本校の地理歴史科の目標

我が国の成り立ちや歴史的過程の生活・文化の特色についての理解と認識を深め，国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う。

第 6 学年の目標

わが国の近世および近代の大正・昭和史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け，現代の諸課題に着目して考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。また，大学受験における基礎力・応用力を身に付けさせる。

学習方法

- (1) 授業で扱う歴史的事象を，大きな歴史の中で確認する。
- (2) その歴史的事象の説明を大まかに理解する。
- (3) その歴史的事象の背景や原因，理由や経過，結果や意義についての疑問をもつ。
- (4) 生じた疑問についての検証を多角的におこない，解決を図る。
- (5) この時間内に学習した事項を，演習問題などで徹底して復習する。

評価の観点・方法

以下の 4 観点に基づき，生徒一人一人の学習状況を單元ごとに評価をします。

観点① 歴史的事象の 関心・意欲・態度	歴史の事象や課題について関心を持ち、意欲的に探究しようとしている。				
観点② 歴史的な思考 ・判断・表現	歴史の事象や課題について、その背景や原因、問題点を論理的にまとめ、発表しようとしている。				
観点③ 資料活用 の技能	資料や文献を多面的な角度から分析しようとしている。				
観点④ 歴史的事象に ついての知識・理解	歴史の事象や課題について、その特色や意義を知り、相互の関連を理解し、その知識を体系化し、活用する。				
	評価の方法\観点	①	②	③	④
	学習態度の観察	○	○	○	
	課題などへの取り組みと提出物	◎	○	◎	○
	授業内テスト	○	○		○
	定期考査		◎	○	◎

学習内容

	具体的な学習到達目標	学習内容／教材	特記事項
1 学 期	・旧石器時代・縄文時代・弥生時代の違い、我が国の成立過程が理解できる。 ・律令制度の内容と意義が理解できる。 ・律令体制の変質過程＝王朝国家体制へ変化が理解できる。 ・摂関政治の仕組みが理解できる。 ・中世の最初の政権形態である院政が理解できる。 ・初めての武家政権である鎌倉幕府の枠組み、その象徴である御成敗式目の内容と意義が理解できる。 ・鎌倉新仏教を中心とした文化が理解できる。 ・鎌倉幕府衰退の原因と室町幕府の成立過程が理解できる。 ・南北朝時代のなかでの守護大名の成長が理解できる。 ・室町文化の特徴や具体的な文化の実態が理解できる。 ・戦国大名登場の意義が理解できる。 ・織豊政権の成立過程とその革新性が理解できる。 ・桃山文化の特徴や性格が理解できる。 ・江戸幕府の成立過程、幕藩体制の枠組みが理解できる。	1. 文化の始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳と大和政権 4. 飛鳥の朝廷・律令国家への道 5. 平城京の時代と天平文化 6. 平安王朝の形成 7. 摂関政治と国風文化 1. 院政と平氏の台頭 2. 鎌倉幕府の成立と武士の社会 3. 蒙古襲来と幕府の衰退 4. 鎌倉文化 5. 室町幕府の成立 6. 幕府の衰退と庶民の台頭 7. 室町文化 8. 戦国大名の登場 9. 織豊政権 10. 桃山文化 1. 幕藩体制の成立 2. 幕藩社会の構造 3. 幕政の安定 4. 経済の発展 5. 元禄文化	(教科書・史料集・図録とプリント)
2 学 期	・幕藩体制が動揺していった背景、それに対する三大改革の内容と意義が理解できる。 ・江戸時代の文化が時代とともに特色あるものであることが理解できる。 ・江戸幕府滅亡の背景とその過程、明治維新政府の新しい近代国家づくりについて理解できる。 ・自由民権運動の意義、明治憲法と日本国憲法の違い、明治憲法の内容と意義、日清・日露戦争の原因と両戦争の特色、講和条約の意義、産業革命について理解できる。 ・第一次世界大戦後の世界の枠組みと、その中での日本の内政・外交の動きが理解できる。 ・世界恐慌をいかに克服したか、政党内閣はなぜ崩壊したか、満州事変から日中戦争はなぜ起こり拡大したか、太平洋戦争と第二次大戦の特色と日本が敗れた理由が理解できる。 ・戦後のGHQの占領政策により日本の政治・経済体制はどのように変わったか、高度経済成長はなぜ可能だったのか、経済大国としての日本の課題や方向が理解できる。	6. 幕政の改革 7. 宝暦・天明期の文化 8. 幕府の衰退と近代への道 9. 化政文化 1. 江戸幕府の滅亡 2. 明治維新明治初期の外交 3. 富国強兵 4. 殖産興業と文明開化 5. 自由民権運動 6. 立憲制の成立 7. 立憲政治の展開 8. 日清・日露戦争 9. 産業革命と社会の変容 10. 明治の文化 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制 3. 市民生活の変容と大衆文化 4. 恐慌の時代と軍部の台頭 5. 第二次世界大戦 6. 占領下の日本 7. 高度経済成長の時代 8. 経済大国への道 9. 冷戦の終結と日本社会の動揺	(教科書・史料集・図録とプリント)
3	・マーク・記述・論述問題に対応した演習により、総合力の充実を目標とする。	○ センター対策演習 ○ 国公立2次・私大対策演習	

学習のアドバイス

○歴史的事象と現代の世界を関連させて考えること。

→ 世界の歴史を学ぶことは、我々が生きているこの現代の社会を理解することに直結する。

→ 皆さんがこれから、現代の世界でどう生きていくかということを考えていく大きなヒントになる。

○授業で扱った歴史的事象に関連する書籍を読んだり、映画を観たり、博物館に行くこと。

→ 関連する地域や時代に興味・関心が出てきて、自ら課題を持って学びたいくなる。

→ 思わぬ気づきや発見があって、学習意欲が高まるとともに、歴史的理解が一層深まる。

○新聞やインターネットで時事問題に出来るだけ触れ、世の中の出来事に興味・関心をもつこと。